

ICT学習環境整備事業

学びの改革支援課
特別支援教育課

1 GIGA スクール運営支援センターの設置

(1) 現状・課題

- ・ 県立高等学校及び特別支援学校ともに令和4年度に1人1台タブレット環境が実現し、授業におけるICT機器の利用が進む一方で、ICT機器の故障、接続不良が、授業の遅延や教員の業務量増につながってしまう。
- ・ ICT機器の整備を行ってきたが、機器の運用を支援する人材が不足している。
- ・ タブレット端末の持ち帰りや休日・長期休業時の対応支援が不足している。

(2) 事業目的

1人1台端末の円滑な運用を支え、教員のICT機器使用に係る対応時間を削減し、本来の教育活動に集中できる環境を整備するため、運営支援体制を整備する。

(3) 事業内容

「GIGAスクール運営支援センター」を設置し、その業務を民間事業者に委託する。

- ・ 障害受付／障害対応に係るメーカーとの調整／障害対応
- ・ 学校訪問による支援（活用方法アドバイス・相談支援等）
- ・ 各学校におけるICT機器資料の作成
- ・ 障害情報の整理・分析 等

2 義務教育におけるICT活用

(1) 現状と課題

- ・ 子どもたちが主体的に学習に取り組む育成が求められている。
- ・ 全国学力状況調査では、データ返却に時間を要するため、学習状況の把握や自己の学習調整に活かしづらい。

(2) 事業目的

子どもたちが、自らの学習を調整し、自律的に学ぶ児童生徒を育成するため、学習状況を迅速に把握可能な仕組みを構築する。

(3) 事業内容

CBTによる学習状況のフィードバックシステムを提供

(CBT: Computer Based Testing コンピュータを使って問題に取り組むこと)

- ・ 対象：小学校5年生、中学校2年生
※R4年度から中学校2年生を対象に試行しており、R5年度からは小学校5年生にも対象を拡大
- ・ 内容：

① 県独自の問題演習及び民間システムの問題演習を掲載

→ 児童生徒に、評価シートがフィードバックされ、自身の弱いところなどを把握

② 生活学習や生活習慣のアンケートを実施 → 学習状況を把握し、授業改善等につなげられる

③ 教員の採点や集計時間を削減 → 教員の働き方改革につながる

3 高校教育におけるICT活用

「情報の発展」や「探究の進化」を目指す学校の学びのDXを後押しするため、ICT教材等の先端的な教育ソフトウェアの導入を支援

4 令和5年度予算額 5,969万8千円